

ポイントは、後に来る動詞です。

格助詞「で」は、動作・行為性の動詞の場合に使われ、格助詞「に」は、存在性の動詞の場合に使われます。「～で…する」「～に(…が)ある・いる」というのが原則です。

ただ、以下のように「で」「に」の両方が使われる動詞もあります。その場合も、「で」は動作(行為)を表し、「に」は存在(場所)を表すことができます。もっと厳密に言えば、「に」は、動作の結果(動作・行為の結果)がそこにおいて実現していることを表す、となると思います。

ご質問の場合には、「生まれる」「育つ」「消える」などは、「で」「に」両方の格助詞に連なるといえます。

このテレビは中国の工場【で】作られた。…テレビを「作る」という行為が行われたのが中国。

新しい施設が中国のテレビ工場【に】作られた。…施設が「作られ」てある場所が中国。

田舎【で】暮らす。…「暮らす」という行為が行われているのが田舎。

田舎【に】暮らす。…「暮ら」している場所が田舎。

森【で】家を建てた。…「建て」という行為が行われたのが森。

森に家があるとは限らない。

森【に】家を建てた。…「建て」られた家のある場所が森。

河原【で】石を投げる。…「投げる」という行為が行われたのが河原。

石はどこにあるか決まらない。

河原【に】石を投げる。…「投げ」た目標(対象)としての場所が河原。石は河原にあるはず。

彼は都会で生まれた(育った)。

彼は都会に生まれた(育った)。彼の姿は人混みで消えた。

彼の姿は人混みに消えた。